

第4学年国語科 学習指導案

河内長野市立小山田小学校
指導者 尾家 裕子

1. 日時 令和6年 9月25日(水) 第5時限 13:55~14:40

2. 場所 北校舎3階 第4学年1組教室

3. 学年・組 第4学年1組(22名)

4. 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう(読むこと 書くこと)

5. 教材名 「未来につなぐ工芸品」「伝統工芸のよさを伝えよう」(光村図書)

6. 単元目標

(1) 事典の使い方を理解し使うことができる。

[知識及び技能](2)イ

(2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ

(3) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ

(4) 言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

7. 言語活動

学校図書館などを利用し、調べて分かったことなどをまとめて書く。

8. 教材観

「未来につなぐ工芸品」は、「初め」「中」「終わり」の構成で書かれており、構成が捉えやすく、要約に取り組むのに適した教材文である。また、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけたりする学習に適している。

そこで、本単元では、「工芸品を未来の日本にのこしていきたい」という筆者の考えや理由を、どのように説明しているのか、考え、読み深めていく。要約することは、リーフレット作りをする学習にいきることを共通理解させ、教材文を要約することに必要感を持って取り組ませたい。要約をする際には、何を取り入れ、何を省くのか考えながら、文字数を調整することも意識し、学習に取り組ませたい。

9. 児童観

本学級の児童は、説明文を読むことについては、1学期に「アップとルーズで伝える」を学習した。ここでは、具体的な例を比較しながら説明している文章を読み、考えとそれを支える理由や事例との関係を理解する学習に取り組み、自分の生活や経験と結び付けながら、自分の考えをまとめた。

本学級では、自分で考えた後に隣の席の児童と考えを交流し合う時間を1学期から度々取り入れてきた。そのため、少人数で意見を交流することは抵抗なく行うことができる児童が多いと感じている。ただ、7月にとったアンケートで「考えを積極的に発言している」という質問に対し、「はい。」と答えた児童が65%だったので、クラス全体で発表するのは苦手であると感じている児童がいるのも現状である。

また、アンケートで「授業の中で自分の考えを書こうとしているか」という質問に対し、クラスの8割以上の児童が「はい」と答えていた。4月に実施したアンケートと比較しても肯定的に答えている児童が増えたことから、自分の考えや意見を書くことに抵抗は少なくなってきたと思われる。

一方で、言いたいことや書きたいことが整理できず、手が止まってしまうたり、書き始めるまでに時間がかかってしまったりする児童もいる。要点をつなげて要約する際も叙述を書き抜いたものをつなげて要約を終えている児童がほとんどだった。「未来につなぐ工芸品」では、児童が交流し合いながら、要点のまとめ方を整理して要約の仕方や要約のポイントについてより広く、深く学んでいけるとよいと感じる。

10. 指導観

4年生の児童は、これからますます文章量の多い読み物、読み取ることが難解な文章に出会いながら学習していく。また、日常生活や他教科の学習においても他者から聞いた情報の中心を捉えたり、資料、インターネットから自分の必要な情報を読み取って、集めたりする場面がある。そうした場面において、要約する力が必要となる。そこで、本単元は、要約する力の育成に重点を置いて単元を構成した。

本単元では、「学校図書館などを利用し、調べて分かったことなどをまとめて書く。」という言語活動として、単元の最後にリーフレットを作る。児童には、作成したリーフレットを教室の外に掲示し、他学年にも見てもらうことを単元の最初に伝える。そして、第1時から第2時までは「未来につなぐ工芸品」を読み進めながら、のちのリーフレット作りを意識し、「よさ」や「みりよく」を伝えるための説明の工夫を見つけていく。第3時では、「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を見つけ、文章全体を200字程度に要約する。第4時では要約した文章を友だちに紹介し、交流する。第5時から第7時は、学校の図書室にある「ポプラディア」や関係する書籍などを利用して資料を集めさせる。第8時からはそこで調べた資料を基に、本教材で学習した説明の工夫を生かして下書きをし、第11時でリーフレットを完成させる。何度も自分の文章を読み、推敲しながらリーフレットを作ることを通して、「読み手にとってよりよい文章」に仕上げるという意識を育てたい。そこで仕上げたリーフレットを第12時に友だちと読みあい、感想を伝え合っていく。

本校の研究テーマは「自分の考えをもち、表現できる子どもの育成を目指して～説明文を通して考えを形成する力をつけるための授業づくり～」である。本教材を学習するにあたって、要約する目的を明確にして要約の必要性を実感させ、手順を確かめながら目的に沿って要約させたい。手順を押さえて要約する中で、児童自身が工夫したり、友達の工夫を見つけたりしたものを要約のポイントとし、それをみんなで共有しながら、要約の仕方の定着を図りたい。そして、共有したことを基に要約した文章を読み直し、推敲することでよりよい要約を目指していくという学び方を習得させたい。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事典の使い方を理解し使っている。(2)イ	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B (1)ウ ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。C (1)ウ	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、調べて分かったことなどをねばり強くまとめて書こうとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全12時間 本時 9 / 12)

時	学習内容	学習評価(◎記録に残す評価○指導に生かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統工芸について関心をもつ。 構造と内容の把握 ●単元の学習のめあてを確認し、学習計画を立てる。 ・自分で興味を持った伝統工芸について調べ、そのリーフレットを作成すること、そのために本文で書き方や伝え方の工夫を学習するという見通しを持つ。 ・作成したリーフレットを廊下に掲示し、他学年、特に高学年に見てもらうことを知る。 ・全文通読し、初発の感想を持つ。 			○	〈行動観察・ノート〉
2	<ul style="list-style-type: none"> ●「未来につなぐ工芸品」を読み、おおまかな内容を捉える。 構造と内容の把握 ・全文通読を行う。 「初め」「中」「終わり」に分ける。 		○②		〈行動観察・ノート〉

	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」で挙げられている例と、その役割を確かめる。 ・写真を使った説明効果についても考える。 				
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ●「初め」「中」「終わり」のまとめりに、中心となる語や文を見つけ、要約する。 精査・解釈 ・筆者の伝えようとしていることを捉えるために、考えと事例との関係を明確にする。 ●要約した文章を紹介しながら、筆者の考えについて考えたことを伝え合う。 		◎②	○	<p>まとめりに中心となる語や文を考えて記述しているか確認。</p> <p>【思・判・表②】 〈行動観察・ノート〉</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統工芸に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に知らせる。 ・ポプラディアや伝統工芸品に関する書籍を利用し、リーフレットに書く伝統工芸品を実際に調べる。 情報の整理 	◎			<p>ポプラディアや参考図書の使い方を理解し、実際に使うことができているか確認。</p> <p>【知・技】 〈行動観察・ノート〉</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ●「工芸品のみりよくをつたえよう」の学習課題、学習の流れを確かめる。 題材の設定 ・教科書の例を基に、情報整理と組み立てがリーフレットにどうつながるのかを知る。 ・興味をもった工芸品のどんなことをさらに調べ、伝えたいかについて考える。 			○	〈行動観察・ノート〉
7	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の好きな伝統工芸を決めて、本などで調べ、情報を整理する。 情報の収集・内容の検討 ・情報を集める。 ・情報を整理する。(図・メモ) ・組み立てを考える。(図・メモ) 			○	〈行動観察・ノート〉
8	<ul style="list-style-type: none"> ●考えた組み立てに沿って文章を書く。 構成の検討 考えの形成、記述 ・「初め」の下書きを行う。(8時) 				<p>それぞれが選んだ伝統工芸について良さを感じ、要約しているか確認。</p>
9 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・よさを、具体例を挙げながら、「中」の下書きを行う。(9時) 	○	◎①	○	<p>【主】〈行動観察・ノート〉</p> <p>ロイロノートやメモで整理した情報を基に、リーフレットに載せる文章の</p>

10	・「終わり」の下書きを行う。(10時)				組み立てを考えているか確認。 【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉
11	●レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。 推敲		◎①	◎	下書きを基に、レイアウトを工夫しながら読み手にとって分かりやすいリーフレットを作ることができているか確認。 【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉 相手意識をもって、より分かりやすい説明文でリーフレットを作ろうとしているか確認。 【主】〈行動観察・ノート〉
12	●友だちと読みあい、感想を伝えあう。 共有 ●単元の学習を振り返る。		◎①		〈行動観察・ノート〉

13. 本時の展開(9/12時間目)

(1) 本時の目標

- ・調べたことを基に、伝統工芸のみりよくとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・調べたことを基に、伝統工芸のみりよくとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書いている。【思・判・表】①

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報を基に、伝統工芸のみりよくとそのよさを、具体例を挙げながら、くわしく書くことができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例を掲示し、「工芸のみりよく」「そのよさが伝わる具体例」を色分けし、視覚的に支援する。 ・「説明の工夫」が書けているか、チェックポイントを使って支援する。 <p style="text-align: right;">【思・判・表①】</p>

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
5分	①前時までの学習を振り返る。 ②「博多おり」の組み立ての例とリーフレットのつながりを確認する。 ③前時に書いた下書きの「初め」をそれぞれで音読み、確認する。	・前時までに学習した作者の書き表し方の工夫を思い出しながらかくように指導する。	
5分	④本時のめあてを確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ㊦説明する文章を工夫して書こう。 </div>		
10分	⑤ポイントを確認する。 ○自分の考えを書く。 ○説明の工夫を入れる。 ・みりよく ・よさを伝える具体例 ○400字程度にまとめる。	・自分が伝えたい伝統工芸のよさが読み手にしっかり伝わるように書くことを意識するよう指導する。 ・「未来につなぐ工芸品」で学習した書き表し方の工夫を生かして書くよう指導する。 ・相手意識をもって書くことを押さえる。 ・10分後「説明の工夫」を基に、進捗状況を確認することを伝える。	思考・判断・表現① 〈行動観察・ノート〉 【記録に残す評価】 主体的に学習に取り組む態度 〈行動観察・ノート〉
5分	⑥書く		
5分	⑦「説明の工夫」が書けているかを全員で確認する。	・「説明の工夫」が書けているかを確認する。	
5分	⑧引き続き書き進める。		
5分	⑨ペアで伝えあう。	・「説明の工夫」が書けているかを中心に、より相手に伝わる文になるよう気づいたことを伝えあわせる。 ・ペアの相手に自分の文章を説明するよう指示する。	主体的に学習に取り組む態度 〈行動観察・ノート〉

5分	⑩伝えあったことを基に推敲し、より読み手に読みやすいもの に書き換える。	・ペアで伝えあったことを活かし、よりよいリーフレットを作ろうとするように伝える。	
5分	⑪次時の見通しを持つ。 ⑫学習内容を振り返る。	・次回は、「終わり」の文章を書くことを伝える。	

ご高評価欄